

的に家賃低下運動を支持し、更に遑る総選挙には、支持政黨たる全民黨の公認候補、田方、吉野兩氏、聯合會長大矢省三君を應援し階級的政黨としての本分の發揮に極力努力した。又政黨及組合の合同問題については、各所屬組合の代表委員と常に慎重協議し適宜その處置を善處し來つた。

専門部報告

争議部

資本家階級の攻勢は、緊縮政策産業合理化等の名によつて勞働階級に對する徹底的な逆襲が行れつゝある。

大阪金屬勞働組合之部

支部名	工場名	参加人員	種類	原因	發生月日	解決月日	結果	犠牲者
鐵心第二支部	前山製作所	一四	紛議	収入減	四年三月七日	同日勝	利ナ	シ
鐵心第一支部	大阪鐵管工場	七〇	同	待遇改善	三月六日	四年三月廿三日	同	
同第二支部	前山製作所	一三	争議	工場閉鎖	三月十九日	同	同	
同大開支部	東洋ヤスリ伸銅所	二五	紛議	待遇改善	四月九日	四月十一日	同	
同市岡支部	吉野鑄造所	二四	争議	解雇反對	五月廿日	五月廿二日	同	
同西成支部	酒井鐵工所	三五	同	値下反對	七月廿三日	七月廿六日	同	
東部第二支部	辻ガラス工場	七〇	同	値下反對	七月廿五日	七月廿九日	同	

かゝる情勢の下に於いて、必然にストライキの波は、擴大し深化した。別表によつて明らかなるように、昨年度に扱つた争議は實に夥しい数に上る。而して、最近起りつゝある争議の重要な特徴は、その大部分が資本家の逆襲に依るものと云ふことである。従つて徹底的闘争を續けた争議は、必然に激化し、深刻化し、而して又非常な弾壓が加つた。だが我々はよく戦つた。その大部分の争議が逆襲によつて起され困難な情態に置れたにも関わらず、全般的に言つて相當の戦績を戦ひ取る事が出来た。以下簡単に、争議内容及戦績を列記すれば

鐵心春日出支部	大阪製鐵所	四〇〇	争議	待遇改善	八月十四日	九月十七日	同	協	二
西成支部	酒井鐵工組	二四	第二争議	工場閉鎖	八月廿五日	八月廿七日	手當支給	同	ナ
鐵心市岡	山梅組	一五	争議	解雇反對	九月十四日	十月十八日	同	協	同
西成支部	岩本錫電工場	一二	同	條件低下	九月廿七日	九月廿二日	同	同	
鐵心第三支部	内外綿株式會社	五五	同	同	九月廿七日	十月廿五日	同	同	
鋼管工支部	加藤金屬工場	五〇	紛議	待遇改善	七月一日	十月十五日	同	同	
鐵心淀川	大阪鐵管會社	七〇	同	貨銀値上	十月十六日	十月二十日	同	同	
島屋支部	住友製鋼所	一〇	同	解雇問題	十月	十月二十日	規定	同	
汽車會社支部	廣瀬會社	一〇	同	解雇反對	十月	十月三十日	同	同	
東部第一支部	廣瀬製作所	五〇	争議	賃銀不拂	十月四日	十月二日	取消	同	
西成支部	岩橋製作所	七〇	同	工場閉鎖	十月廿九日	十月六日	同	同	
鐵心淀川	大阪鐵管會社	一〇〇	紛議	待遇改善	十月廿一日	同	同	同	
北大阪第一支部	三平金屬工場	三〇	争議	工場閉鎖	十月七日	同	同	同	
市岡第一支部	黒川鐵工所	三〇	紛議	工場閉鎖	十月十五日	同	同	同	
北大阪	三平金屬工場	二七	紛議	賃銀値下	五年一月廿五日	五年二月廿六日	手當支給	同	
鐵心第一支部	大和工業所	一七	同	工場閉鎖	一月廿五日	一月廿九日	同	同	
鐵心第二支部	塚本鐵工所	三〇	同	工場閉鎖	一月七日	一月十日	同	同	
東部第二支部	明田鐵工所	六〇	争議	工場閉鎖	二月九日	二月十八日	同	同	
鐵心第二支部	極東製鐵會社	三〇	同	同	同	同	同	同	
朝日支部	佐雜金屬工場	三〇	同	同	同	同	同	同	